

國學院大學学術情報リポジトリ

『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』写本装飾と中世薬効植物学写本に関する一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-30 キーワード (Ja): 植物図譜, 『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』, ジャン・ブルディション, 『薬効植物の書』, ロビネ・テスタール キーワード (En): 作成者: 斉藤, 彩香 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000344

『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』 写本装飾と中世薬効植物学写本に関する一考察

斉 藤 彩 香

論文要旨

本論文では16世紀初頭フランス、トゥールにおいて、宮廷画家^{ジャン・ブルディション}（Jean Bourdichon, 1457?-1521年）により彩飾された『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』^{だいじとうしょ}（*Les Grandes Heures d'Anne de Bretagne*, 1503-1508, ms. latin. 9474, フランス国立図書館以下 BnF.）の欄外装飾の植物画についての一考察を示し、^{しよくぶつずふ}植物図譜の先駆けとしての位置づけを確認する。また、『大時禱書』の欄外装飾に見られる植物画と15世紀末から16世紀初頭に制作された写本群、^{やっこうしよくぶつ}『薬効植物の書』^{しよ}（*Livre des simples médecines*）の挿絵との比較を行う。この『薬効植物の書』は、古典古代由来の薬効植物学書を継承したフランス語訳写本群であり、本論文では写本画家^{ろびね・テスタール}（Robinet Testard, 1471-1531年頃活動）によって挿絵が描かれた写本（ms. fr. 12322, BnF.）を中心に考察する。この比較研究によって、『大時禱書』の制作背景に薬効植物学写本があったことを指摘する。

キーワード：^{しよくぶつずふ}植物図譜 『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』
^{ジャン・ブルディション} 『薬効植物の書』 ^{ろびね・テスタール}

目次

はじめに

第1章：『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』と画家ジャン・ブルディション

1-1 『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』の制作背景

1-2 画家ジャン・ブルディションと写本装飾

第2章：写本欄外装飾にみる他地域からの影響

2-1 「ヘント＝ブルッヘ派」写本からの影響

2-2 他地域の画家との交流：イタリアの画家ヨアン・トデスキーノ

第3章：植物図譜の先駆けとしての『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』

3-1 植物図譜としての性格

3-2 描かれた植物とテキスト及び物語場面との関係

3-3 王妃アンヌの植物への関心

第4章：『薬効植物の書』（*Livre des simples médecines*）との比較

4-1 フランス語訳写本群『薬効植物の書』

4-2 挿絵画家ロビネ・テスタールと『薬効植物の書』

4-3 『薬効植物の書』と『大時禱書』の植物比較

おわりに

はじめに

ジャン・ブルディション (Jean Bourdichon, 1457?-1521年) によってトゥールで彩飾された『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』(*Les Grandes Heures d'Anne de Bretagne*, 1503-1508, ms. latin.9474, BnF. 以下『大時禱書』)(図1)は、精緻に描かれた欄外装飾の植物画によって、植物図譜としての性格を有する写本であると指摘されてきた⁽¹⁾。本論文では、第1章と2章において、『大



図1 『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』 fol.26v-27r, ms. latin. 9474, BnF.

時禱書』とブルディションの他の写本作例について確認し、写本装飾の特長を示す。そして、欄外装飾の植物の写実的な表現について、トロンプ＝ルウイユ（仏：Trompe-l'œil, 目だまし）を用いた「ヘント＝ブルッヘ派」写本や画家の交流からの影響について述べる。第3章では、『大時禱書』に描かれている植物について考察し、時禱書でありながら、植物図譜的な性格を有していたことを確認する。第4章では、『大時禱書』と『薬効植物の書』（*Livre des simples médecines*）を比較検討し、植物研究との関わりの可能性を考察する。この『薬効植物の書』は、ラテン語で著され中世広く知られた古典古代由来の薬効植物学書（通称：「*Circa instans*」）のフランス語訳写本群であり⁽²⁾、本論文では特に写本画家ロビネ・テスタール（Robinet Testard, 1471-1531年頃活動）によって挿絵が描かれた写本（図2）を考察する。この比較研究によって、『大時禱書』の制作背景に薬効植物学写本があったことを指摘する。



本研究の主眼は、植物研究と画家、
特に写本欄外装飾や本草書挿絵に関

図2 『薬効植物の書』（*Livre des simples médecines*）, fol.143v-144r, fr. 12322, BnF.

わる画家の交流や作品の参照等の関係であり、植物研究に関わる作品がどのような知識や技術、芸術との関わりのなかで成立したかという点にある。そのため、『大時禱書』の写本芸術における位置づけを確認することで、（花の）静物画の研究等では触れられる機会の少ない、15世紀末の植物研究と植物画をとりまく状況について検討する。そして、この『大時禱書』の欄外装飾に見られる植物画と15世紀から16世紀初頭に制作された写本群、『薬効植物の書』の挿絵の比較を行う。

第1章：『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』と画家ジャン・ブルディション

1-1 『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』の制作背景

『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』は1503年から1508年にかけて、ジャン・ブルディションによってロワール川に面する都市トゥールの工房で彩飾された時禱書である。この『大時禱書』には50枚の宗教的題材（物語画）のミニアチュールと12枚の月暦画のあるカレンダーページがあり、350葉以上あるすべてに植物画の欄外装飾が施されている⁽³⁾。

この『大時禱書』は、その名の通りアンヌ・ド・ブルターニュ (Anne de Bretagne, 1477-1514年) の注文により、5年ほどの歳月をかけ制作された非常に豪華な彩飾写本であり、注文に関する史料は19世紀の古文書研究によって、支払いに関する文書が発見されている⁽⁴⁾。この「支払いを命ずるアンヌの委任状」⁽⁵⁾によると、『大時禱書』に豪華な彩飾を施したこと、また、これまでの働きに対して、金貨600枚 (escuz d'or) で1050リーヴル・トゥルノワ (livre tournois) という多額の報酬がブルディションに支払われたことが明らかとなっている。『大時禱書』の欄外装飾の植物画はアンヌ周辺で高く評価されたと思われる、植物名の記載の有無に違いはあるものの非常に類似した彩飾は現在確認できる限り、フランソワ1世のために制作された時禱書 (*Holford hours*, Book of Hours, Tours, France, ca. 1515, MS M.732, the Morgan Library.) や、大英図書館蔵の二点 (Add. Ms. 18855, Tours, France, ca. 1510-1525, Add. Ms.35214, France, ca. 1510-1525) が16世紀前半に制作されている。このことから、16世紀初頭のフランス宮廷において植物への一定の関心があり、芸術作品にも影響を与えた可能性を示すことができる。

また、植物研究に関する書物は16世紀盛んに出版され、大学付属の植物園の成立や植物を含む珍品蒐集の熱が高まると、美しい植物画が収録された植物図譜の制作にも関心が集まった⁽⁶⁾。このような博物学的な関心のもと行われた「収集・分類・保存」をキーワードとする文化的な活動は、15世紀末の宮廷にはじまり、「ヘント＝ブルッヘ派」の写本装飾にもその影響が示唆される⁽⁷⁾。また、アルプス以北の絵画芸術における風景画や静物画の出現も同時代であるほか、初期印刷本草書において、1485年にマインツのペーター・シェーファー (Peter Schöffer, 1425-1503年) によって出版された『健康の庭』 (*Gart der Gesundheit*, 1485年) には写生図をもとに彫られた木版画が掲載されている。このような描写の変化は、中世以来「書斎の学問」としてラテン語・ギリシア語のテキストの研究に重きを置き、挿絵は植物の実際の形態とは程遠い描写や迷信めいた表現を含む図像から、植物の形態を正確に記録しようという描写への転換であったと考えられる。以上を踏まえ本章では、写本欄外装飾に関わる画家ジャン・ブルディションの活動と周辺の画家について考察する。

1-2 画家ジャン・ブルディションと写本装飾

ブルディションはトゥールで活躍した画家ジャン・フーケ (Jean Fouquet, 1420-1478/1481年頃) の工房で学び、遠近法やイタリア建築風の装飾などを作品に取り入れた。フーケの死後1481年にブルディションはフーケの後を継ぎ宮廷画家となり、ルイ11世、シャルル8世、ルイ12世、フランソワ1世の4代の王に仕えた。これによりブルディションは

15世紀末から16世紀初頭にかけてトゥールでもっとも有名な画家となった⁽⁸⁾。

『大時禱書』以前のブルディションの写本作例として、1498-1499年に制作された『ルイ12世の時禱書』がある。『ルイ12世の時禱書』は、断片のみが現存している写本であるものの、ミニアチュールのいくつかは『大時禱書』と同主題であり、比較することができる。特に「ピエタ」と守護聖人を伴う寄進者像、「降誕」、「マギの礼拝」、「ユダの接吻」などの場面は、背景や構図の反転といった違いがあるものの、全体の構図や人物の配置・ポーズ、衣服の色彩は類似している。そのため、『大時禱書』のミニアチュールは、『ルイ12世の時禱書』の制作に際して用意された図像を繰り返し用いたと考えられる。また、欄外装飾については、月暦画の裏面に、「ヘント＝ブルッヘ派」のようなトロンプ＝ルウイユの欄外装飾が確認できる。しかし、ここで描かれているのは、特定の植物ではなく、それまでの欄外装飾にもよく見られるアカンサスの葉のような装飾的な植物文様である。このことから、『大時禱書』の欄外装飾の植物画は、ともに描かれたミニアチュールと違い、『大時禱書』の制作に際して、特別に用意されたと考えられる。

第2章：写本欄外装飾にみる他地域からの影響

2-1 「ヘント＝ブルッヘ派」写本からの影響

『大時禱書』の欄外装飾における植物の自然主義的な描写は、15世紀後期に多くの写本を制作した「ヘント＝ブルッヘ派」のトロンプ＝ルウイユを用いた欄外装飾からの影響が先行研究で指摘されている⁽⁹⁾。しかし植物描写について、その直接的な関係については詳らかにされていない。そのため、本章では「ヘント＝ブルッヘ派」写本やイタリアで活動した画家からの影響について具体的な例を示し、欄外装飾の植物描写について考察する。

『大時禱書』における物語場面のミニアチュールは板絵のように一点一点が完成された構図と空間表現を有し、木枠のように描かれたトロンプ＝ルウイユのフレームによって、ディプティックを思わせる表現となっている。また、欄外装飾に描かれている植物は、時に、物語画の人物の顔と同じかやや大きく、その存在感を強く示しており、単なる周縁部の飾りとは思えないほど緻密に物語画と同等の熱量をもって描かれている。このように存在感を際立たせ、現実味を付与しているのが、花やそこにとまるトンボやチョウなどのトロンプ＝ルウイユ表現である。こうした欄外装飾の表現は1480年頃から「ヘント＝ブルッヘ派」写本に見られる、写実的な花が羊皮紙の上に散りばめられたようなトロンプ＝ルウイユの欄外装飾（図3）に由来すると考えられる⁽¹⁰⁾。そのため、このような装飾が、ブルディションに影響を与えた背景について、彼が参照した可能性のある「ヘント＝ブルッ

fol. 30v

fol. 31r

ド・ブルゴーニュの画家周辺で描かれたとされ、装飾部分はほとんど現存しないがテキスト部分の写字生ニコラス・スピエリンクの筆跡から、1480年頃にマリー・ド・ブルゴーニュの画家周辺（工房）で制作され、トロンプ＝ルイユの欄外装飾があったと考えられている⁽¹²⁾。もう一点が、通称『*La flora*』（図3）と呼ばれる時禱書である⁽¹³⁾。この時禱書は、アンヌが最初に結婚したフランス王シャルル8世所有の写本であり、シモン・マルミオン、ドレスデン時禱書の画家、マクシミリアン1世の最初の時禱書の画家ら「ヘント＝ブルッヘ派」の画家らが彩飾したとされる⁽¹⁴⁾。ここで見られる欄外装飾の花やトンボなどが装飾の枠を越えるようなトロンプ＝ルイユ表現は、『大時禱書』におけるブルディションの表現と共通しているのである。

アンヌ自身が父から受け継いだ写本以外に「ヘント＝ブルッヘ派」写本を有していたかは定かではない。しかし、彼女の周辺にはトロンプ＝ルウイユの欄外装飾が施された写本があったと推測でき、宮廷画家であったブルディションはそれらの写本に触れた可能性がある。

ブルディション周辺には『大時禱書』の制作以前か同時期に、「ヘント＝ブルッヘ派」のと関わりのある画家やイタリアで活動した画家らがあり、後述するロビネ・テスタールなど、他地域の画家と共同で仕事をした。特に影響を与えたと考えられる画家は、1482年頃からナポリでフェデリコ1世（Frédéric I de Naples, 1451-1501年）に仕えたヨアン・トデスキーノ（Ioan Todeschino, 15世紀末から1503年頃活動）である⁽¹⁵⁾。この画家はフェデリコ1世がフランスへ亡命する際に同行、トゥールに拠点を移し、ブルディションと写

本の制作をした⁽¹⁶⁾。トデスキーノの写本欄外装飾には、「ヘント＝ブルッヘ派」を思わせるトロンプ＝ルウイユ表現が見られる（図4）。

ブルディションは生涯トゥールから離れることはなかった画家とされているが、15世紀のロワールの宮廷文化のなかで活動し、パトロンの所有する他地域の作品や、周辺の画家らから影響を受けたと考えられる。



図4 『アラゴンのフェデリコの時禱書』（*Heures de Frédéric d'Aragon*），1501-1502年，fol.324v-325r，ms. latin 10532，BnF.

第3章：植物図譜の先駆けとしての『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』

本章では、『大時禱書』で描かれた植物について、植物の名称の記載、植物種の豊富さ、選び描かれた植物の特異性から他の時禱書には見られない植物図譜的な役割を有したことを確認し考察する。

3-1 植物図譜としての性格

『大時禱書』の植物図譜としての性格は、植物の名称の記載に現れている。カレンダーページや全てのテキストページに精巧に描かれた300種以上の植物にはそれぞれ、ページの上下にラテン語とフランス語の名称が添えられている（図5）⁽¹⁷⁾。

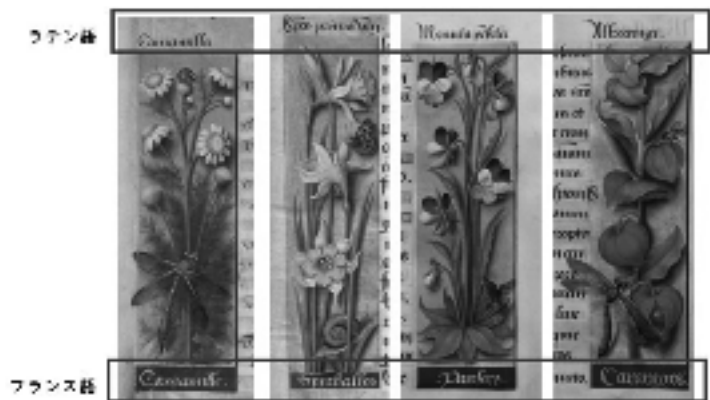


図5 『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』欄外装飾（部分）

また、ここで紹介される植

物種の多さもその性格を強調している。複数の先行研究で指摘されているとおり、『大時禱書』

で描かれる植物画は、同定できない植物含め337点あり⁽¹⁸⁾、筆者もこれを確認した。また、色違いや同定できないもの、同一種の実か花かなど時期の違いによる描き分けを数えない場合、筆者が同定できた植物種は314種である。そのほとんどは観察に基づいて描かれたと推測されるほど精緻に描かれている。

多くの植物がこの『大時禱書』に集められる一方で、ここで描かれた植物が、16世紀初頭にフランスで知られていた植物のすべてではないことは明らかであり、選定基準や描かれる順番については慎重に検討する必要がある。ほぼすべての植物に名称が付されているが、ラテン語・フランス語どちらもアルファベット順ではなく、全体として開花時期等の季節は意識されていない。一方で、近い種の植物が連続で描かれる場合もある。また、「受胎告知」の対ページ(図1)にバラやユリが描かれているように、まったくテキストや物語場面の聖人との関わりを無視しているわけでもない。

3-2 描かれた植物とテキスト及び物語場面との関係

描かれたいくつかの植物は、アルプス以北の絵画において初出であることが先行研究で指摘されている⁽¹⁹⁾。その一例として、種が明らかなスノードロップ(*Galanthus*)を挙げる(図6右端と左端の白い三花卉の植物)。類似した花として、スノーフレーク(*Leucojum*)のような小さな白いベル形の花は、写本欄外装飾や15世紀の北方絵画に描かれるが、スノードロップはアルプス以北では珍しい植物であった⁽²⁰⁾。さらに、中南米原産のウリ科の植物(図7)も描かれている。この植物は早くとも17世紀後半、フランスで本格的に栽培が始まったのは18世紀と考えられていたが、『大時禱書』の研究から16世紀にはトゥールの庭園で栽培されていたと推測できる。また『大時禱書』には、庭園や宮廷を飾るような花々以外の植物も、存在感をもっている。例えば、食用となるアーティチョークやタマネギ、ニンニク、果物が描かれている。また、イネ科の植物やシダ植物のような装飾に適さないとと思われる植物も数種類描かれている。



図6 スノードロップ
(*Galanthus*) , fol.22r

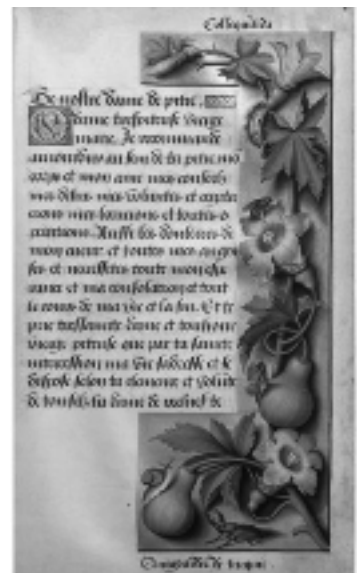


図7 ウリ科の植物, fol.61r

以上のように、写本欄外装飾等でよく描かれるバラやスマレ、オダマキやカーネーションなど、聖母や受難と関連づけられる植物と違い、『大時禱書』にはこれまでの写本には見られない植物が含まれている。そして、そのいくつかは、アルプス以北の絵画において、初出であり、宗教的な意味付けやテキストとの関わりがほとんど意識されていないと考えられる。

3-3 王妃アンヌの植物への関心

『大時禱書』で描かれた植物は、アンヌが実際にロワール川沿いのいずれかの城館の庭園で栽培していた植物からコレクションとして『時禱書』に描き収められた可能性や、薬効植物学関連の書物から引用された可能性、また、ブルディションの植物描写への関心も背景として想定されよう。いずれの場合にせよ、注文主アンヌの植物への強い関心があったことは容易に想像される。しかし、『大時禱書』のテキストページに描かれた種々の植物の出典は定かではない。描かれた植物はその写実性によって、ブルディションが直接これらの対象を観察することができる環境にあったと推測できる。また、王妃の庭園、特にブロワの庭園に関する現存する1516年のスタッジオ・ガディオによる記述であり、『大時禱書』の成立よりも後年である⁽²¹⁾。そのため、『大時禱書』制作期に王妃アンヌの庭園が実在していたか、実在した場合、どのような植物が栽培されていたか明らかでない。

『大時禱書』の植物はいかなる書物または、作品を参照して選ばれたのかを調査することは文献調査のみでは不十分であり、周辺の植物研究に関わる作品との比較研究も必要である。この研究は『大時禱書』の注文背景と、アンヌや彩飾を担ったブルディション周辺、また同時代の植物に関する知識の動向を明らかにする一助となり得る。そのため次章、15世紀末から16世紀初頭のフランス宮廷で知り得た植物学の知識、また『大時禱書』の植物画と影響関係にあった可能性のある写本について考察する。

第4章：『薬効植物の書』（*Livre des simples médecines*）との比較

本章では、『大時禱書』に描かれた種々の植物の出典のひとつとして、薬効植物学書を想定し、フランスで制作された写本『薬効植物の書』（*Livre des simples médecines*）の図像及び注記された名称と比較する。そして、『大時禱書』と（薬用）植物研究との関連について考察する。

4-1 フランス語訳写本群『薬効植物の書』

『薬効植物の書』は、15世紀から16世紀にかけて制作されたラテン語の医学・薬用植物学のテキスト（通称：「*Circa instans*」）のフランス語訳写本群（表1）であり、25冊程度の写本が現存している⁽²²⁾。これらの写本の系譜は、初めにバウマン（Felix Andreas Baumann）によって、三つのグループに分類された。その後、アヴリル（François Avril）によって、バウマンの分類によるグループⅠとグループⅢが同じ系譜にあるとされ、「北フランスおよびブルゴーニュ諸国写本」と「西フランス写本」の系統に大別される⁽²³⁾。これらの写本挿絵には中世を通じて繰り返し使われてきた植物の図像が引き継がれている場合が多い。しかし、「西フランス写本」のなかでもロビネ・テストールの手によるとされる挿絵付き写本には、多数のこれまでの写本には見られない写実的な植物画を確認できる。

「西フランス写本」グループの元となる写本は、ルネ・ダンジューの兄、メヌ伯シャルル4世の所有していた写本である⁽²⁴⁾。このシャルル4世の写本から派生した「西フランス写本」のなかで、より後期に制作されたのが、ロビネによる挿絵付きの写本（図2）である。

4-2 挿絵画家ロビネ・テストールと『薬効植物の書』

このロビネの挿絵入り『薬効植物の書』写本は、アングレーム伯シャルル・ドルレアン（1459-1496）の注文で作られたとされる。この写本は、フランス国立図書館が所蔵するロビネ自身によるレプリカ（ms. fr. 12322, BnF.）と、ロシア国立図書館に所蔵されているオリジナルの二点が現存する。フランス国立図書館所蔵の写本は、アヴリルによる先行研究においてロシア国立図書館所蔵のオリジナルのほぼ完全なコピーであると述べられている⁽²⁵⁾。

挿絵を担当したロビネは、ポワティエとコニャックを中心に活動した画家である。1480年頃からアングレーム伯シャルル・ドルレアンと妻ルイズ・ド・サヴォワのために仕事をした。そして、この時期にブルディションとともに、『シャルル・ダングレームの時禱書』（*Les Heures de Charles d'Angoulême*, 1480-1496年頃, ms. lat. 1173, BnF）の彩飾を担っている。また、この時禱書で、ロビネはドイツの版画家イスラエル・ファン・メッケネムの作品を時禱書の彩飾に転用しており、ライン川流域の画家による版画からの影響をうかがわせる写本である。

4-3 『薬効植物の書』と『大時禱書』の植物比較

ロビネ画『薬効植物の書』(ms. fr. 12322, BnF.)は1520-1530年頃に、オリジナル(ロシア国立図書館所蔵)は『大時禱書』より早い1489-1495年に制作されており、『大時禱書』と成立年代が近い。また、トゥールとポワティエの地理的な近さ、そして、ロビネはブルディションとともに写本彩飾の仕事を手掛けていたなどの理由から、本論文では比較対象とした。この『薬効植物の書』は、それまでの写本の構成とは異なり、テキストページと挿絵のページが完全に分かれている。また、その写実性においてもこれまでの伝統的な図像ではなく、新たに用意された挿絵であると断定しうる。ここで紹介されているテキスト項目総数は486件、挿絵総数378点(内植物は325点、以外の鉱物などは53点)が確認できる。全ての項目に挿絵がつけられてはいないものの、植物、それ以外も含めて全体の8割の項目がイラストつきで紹介されており、丹念に制作されたことがわかる。その一方で、挿絵の中には、該当するテキストがない場合や挿絵に注記のない場合もある。

筆者は『大時禱書』とロビネ画『薬効植物の書』の植物画について、それぞれ先行研究を参照しつつ、疑わしいものについては独自に同定、記載された植物名を精査し、描かれた植物種の比較を行った。その結果、ロビネの『薬効植物の書』の挿絵に注記されている名称と、『大時禱書』の欄外装飾に記載されたラテン語もしくはフランス語の名称が一致し、図像も同じ植物を描いていると判断できるものは約115点ある。



図8 『薬効植物の書』と『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』比較

例として、ジャスミンとゼニアオイの比較をあげる(図8)。ジャスミンは『大時禱書』fol.86rに描かれており、ラテン語「Sambucus」とフランス語「Jasmin」と記載され、ロビネの『薬効植物の書』fol.177vの注記「Jasmin」はフランス語名に近い例である。ゼニアオイは『大時禱書』fol.71rに描かれており、ラテン語「Malva」とフランス語「Mauves」と記載され、ロビネの『薬効植物の書』fol.177vの注記「Malva ortensis」とラテン語名に近い例である。名称の一致のみに注目すると、『薬効植物の書』の注記は基本的にラテ

ン語であるため、『大時禱書』のラテン語名の方が、フランス語名より一致する割合が高い。この他、植物の名称は一致するが図像が違う例、図像は同じ植物を描いていると判断できるが、名称が違う例もある。

この調査の結果、『大時禱書』で描かれた植物の約3分の1は、図像・名称ともに一致しており、『大時禱書』の制作にあたって、いずれかの薬効植物学の書を参考にした可能性を示すことができた。また、薬効植物学の書物に匹敵する数の植物が『大時禱書』に描かれたことも特筆すべき点であり、その多くが正確な描写とラテン語・フランス語の明記によって紹介されていることが明らかとなった。

おわりに

15世紀に印刷技術が向上し広範囲に適用されていくなかで、写本は高価な芸術作品として、王侯貴族にとってステータス・シンボル、財産としての価値をもち、注文主の教養や価値観が反映された。従って『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』は16世紀初頭に作られた非常に豪華な時禱書であり、王妃アンヌの個人的な思い入れが強く反映され、なおかつステータス・シンボルとなる時禱書と推測できる。『大時禱書』の欄外装飾で特徴的な植物画は、物語画の人物像と同等の存在感を示しており、トロンプ＝ルゥイユの効果によって花々の存在感が強められている。このような植物の写本装飾は1480年頃からの「ヘント＝ブルッヘ派」写本の散りばめられたような花の欄外装飾の影響であり、描かれた植物の豊富さや、ラテン語・フランス語による名称の記載と合わさることで、アンヌの身近にあった植物が『大時禱書』中にコレクションされているとみることにもできる。描かれた植物の多くは、15世紀から16世紀にフランス宮廷で知られていた薬効植物学書のひとつ『薬効植物の書』でも紹介されており、『大時禱書』の制作にあたって、ラテン語名の一致の割合が高かったことから、ラテン語を原典とする書物が参照された可能性を示している。しかし、本研究での比較では、『大時禱書』の植物やその名称の引用元を詳らかにするにはまだ不足がある。そのため、図像の比較研究において、現存する『薬効植物の書』の精査と植物園の成立といった植物研究との関連の検討が必要である。『大時禱書』が、写本の伝統における植物描写の到達点であるならば、ロビネの『薬効植物の書』は薬効植物学写本の系譜における到達点と考えることができるため、双方の成立と影響関係について今後の研究を進めていく所存である。一方当時、印刷本が現れたことによって、植物研究は基本的に印刷本の形で流布するようになる。このことを踏まえ、15世紀末の画家らが参照しえた媒体についての研究も今後の課題としたい。

表1：『薬効植物の書』（*Livre des simples médecines*）一覧

制作年	所蔵館	写本番号	バウマンの分類	アヴリルの分類
1425-1435年	(コペンハーゲン)デンマーク王立図書館	GKS 227 2°	グループIII	北フランス・ブルゴーニュ
1425-1450年	(パリ)フランス国立図書館(Bibliothèque de l'Arsenal)	Ms-2888	グループIII	北フランス・ブルゴーニュ
1450年頃	(ディジョン)ディジョン市立図書館	ms. 0391	グループIII	北フランス・ブルゴーニュ
1450年頃	(パリ)フランス国立図書館	fr. 12320	グループIII	北フランス・ブルゴーニュ
1450年頃	(パリ)フランス国立図書館	fr. 19081	グループIII	北フランス・ブルゴーニュ
1450年以前	(パリ)フランス国立図書館	fr. 12321	グループI	北フランス・ブルゴーニュ
1450年以前	(ベルリン)ベルリン州立図書館	Ham. 407	グループI	北フランス・ブルゴーニュ
1453年	(パリ)フランス国立図書館	NAF6593	グループI	北フランス・ブルゴーニュ
1450-1480年	(パリ)フランス国立図書館	fr. 623	グループI	北フランス・ブルゴーニュ
1460年頃	(パリ)フランス国立図書館	fr. 12319	グループI	北フランス・ブルゴーニュ
1460年頃	(ブリュッセル)ベルギー王立図書館	10226	未分類	未分類
1460-1470年頃	(ブリュッセル)ベルギー王立図書館	ms. IV 1024	未分類	未分類
1472年以前	(サンクトペテルブルク)ロシア国立図書館	fr. F. v.VI.2.	未分類	西フランス
1475-1499年	(リール)リール市立図書館	356 (369)	未分類	北フランス・ブルゴーニュ
1480年頃	(パリ)フランス国立図書館	fr. 1307	グループII	西フランス
1487年以前	(パリ)フランス国立図書館	fr. 9137	グループI	北フランス・ブルゴーニュ
1489-1495年	(サンクトペテルブルク)ロシア国立図書館	fr. F. v.VI.1.	未分類	西フランス
1520-1530年	(パリ)フランス国立図書館	fr. 12322	未分類	西フランス
15世紀前半	(バチカン)バチカン図書館	Reg. Lat. 1292	未分類	未分類
1475-1499	(バチカン)バチカン図書館	Reg. Lat. 1329	未分類	未分類
15世紀	(パリ)フランス国立図書館	fr. 1309-1312	グループII	西フランス
15世紀	(モデナ)エステンセ図書館	Estero 28	グループII	西フランス
15世紀	(ケーニヒスベルク)州立大学図書館	不明	未分類	西フランス
15世紀	(ブリュッセル)ベルギー王立図書館	05874-05877	未分類	未分類
15世紀	(ヘント)ヘント州立公文書館	III. varia 339	未分類	未分類
15世紀	(パリ)フランス国立図書館	fr. 12317	未分類	未分類
15世紀	(ヴォルフエンビュッテル)アウグスト公図書館	Guelf. 84.10 Aug. 2°	未分類	未分類

【注】

- (1) Hermant Maxence, 《Les Grandes Heures d'Anne de Bretagne》, *Art de l'Enluminure*, n° 7, Paris, 2020, p.21.
- (2) François Avril et Pierre Lieutaghi, *Le Livre des simples médecines : d'après le manuscrit français 12322 de la Bibliothèque nationale de Paris*, Paris, Bibliothèque nationale France, 1986, pp. 268-269.
- (3) Hermant Maxence, *op.cit.*, 2020, p. 17.
- (4) *Ibid.*, p. 13.
- (5) *Mandement de la reine Anne de Bretagne de verser 600 écus d'or à Jean Bourdichon pour l'illustration de ses Grandes Heures*, NAF 21192, BnF.
- (6) ウィルフリッド・ブランド『植物図譜の歴史』森村謙一訳、八坂書房、2014年、80頁。
- (7) トマス・D・カウフマン『綺想の帝国—ルドルフ二世をめぐる美術と科学』齊藤栄一訳、工作舎、

1995年、70頁。

- (8) François Avril and Nicole Reynaud, *Les Manuscrits à Peintures en France, 1440-1520*, Paris, Bibliothèque nationale (France), 1994, p. 293.
- (9) Hermant Maxence, *op.cit.*, 2020, p. 21.
- (10) François Avril and Nicole Reynaud, *op.cit.*, 1994, p. 300.
- (11) *Heures de Saint-Pol-de-Léon*, Paris, Bibliothèque nationale de France, Ms. Lat. 1385.
- (12) François Avril and Nicole Reynaud, *op.cit.*, 1994, p.300.
- (13) Celia Fisher, *Flowers in Medieval Manuscripts*, British Library Board, 2004, p. 42
- (14) *Ibid.*, pp. 42-43.
- (15) François Avril and Nicole Reynaud, *op.cit.*, 1994, pp. 296-297.
- (16) Hermant Maxence, *op.cit.*, 2020, pp. 18-19.
- (17) Jules Camus, « Les noms des plantes du Livre d'Heures d'Anne de Bretagne », *Extrait du Journal de Botanique*, 1894, pp. 325-336, 345-352, 366-375, 396-401.
- (18) Mónica Miró ed. by, *Great hours of Anne of Brittany* [commentary volume], Barcelona, M. Moleiro Editor, S.A., 2012, p. 59.
- (19) Fisher, *op.cit.*, 2004, p. 44.
- (20) *Ibid.*, pp. 42-43.
- (21) Mónica Miró ed. by, *op. cit.*, 2012, p. 76.
- (22) François Avril et Pierre Lieutaghi, *op.cit.*, 1986, pp. 272-273.
- (23) 現在確認できた写本は27点あり、内バウフマンは6点をグループⅠに、3点をグループⅡ、5点をグループⅢに分類し、アヴリルは12点を「北フランスおよびブルゴーニュ諸国写本」に、6点を「西フランス写本」に分類した。両者ともに未分類あり。
- (24) François Avril et Pierre Lieutaghi, *op.cit.*, 1986, pp. 271-272.
- (25) *Ibid.*, pp. 269-270.

【一次資料】

・『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』

Horae ad usum Romanum, dites Grandes Heures d'Anne de Bretagne (ms. latin 9474, フランス国立図書館、以下 BnF) XVIe siècle (vers 1503-1508) . Tours. Parchemin, 238 ff., 300×190 mm.

・『薬用植物の書』

PLATEARIUS, *Livre des simples médecines, ou Herboriste* ; en français, par ordre alphabétique (ms. fr. 12322, BnF.) XVIe siècle. Parchemin.197 feuillets à 2 colonnes. 340×258 mm.

【参考文献】

- ・ 先行研究における『アンヌ・ド・ブルターニュの大時禱書』欄外装飾の植物一覧
- Jules Camus, « Les noms des plantes du Livre d'Heures d'Anne de Bretagne », *Extrait du Journal de Botanique*, 1894, pp. 325-336, 345-352, 366-375, 396-401.
- ・『薬用植物の書 (Livre des simples médecines)』(ms.fr.12322, BnF) の基本文献
- François Avril (étude codicologique) et Pierre Lieutaghi (commentaire historique, botanique et médical), *Le Livre des simples médecines : d'après le manuscrit français 12322 de la Bibliothèque nationale de Paris*, Paris, Bibliothèque nationale de France, 1986.
- ・ 研究書・論文 (欧文献)
- Agnes Arber, *Herbals, their Origin and Evolution: a chapter in the history of botany, 1470-1670*, Cambridge 1938. [邦訳『近代植物学の起源』月川和雄訳、八坂書房、1990年]
- François Avril and Nicole Reynaud, *Les Manuscrits à Peintures en France, 1440-1520*, Paris, Bibliothèque nationale (France), 1994.
- Giulia Bologna, *Illuminated Manuscripts: The Book Before Gutenberg*, London, Thames & Hudson, 1988.
- Diane E. Booton, The Book Trade in and beyond the Duchy of Brittany during the Reign of Anne de Bretagne, *The cultural and political legacy of Anne de Bretagne: negotiating convention in books and documents*, London, Boydell & Brewer, 2010, pp. 11-28.
- Michèle Bilimoff, *Promenade dans des jardins disparus, les plantes au moyen âge d'après les Grandes Heures d'Anne de Bretagne*, éd. Ouest-France, Rennes, 2005.
- Michael Camille, *Image on the edge: The Margins of Medieval Art*, London, Reaktion Books, 1992. [邦訳『周縁のイメージ：中世美術の境界領域』永澤峻・田中久美子訳、ありな書房、1999年]
- Minta Collins, *Medieval herbals: the illustrative traditions*, Toronto, University of Toronto Press, 2000.
- Louis Dimier, *Histoire de la peinture française. Des origines au retour de Vouet, 1300 à 1627*, Paris / Bruxelles, 1925, p. 44.
- Celia Fiske, *Flowers in Medieval Manuscripts. British Library*, London, Board, 2004.
- , *The Medieval Flower Book. British Library*, London, Board, 2013.
- Hermant Maxence, « Les Grandes Heures d'Anne de Bretagne », *Art de l'Enluminure*, n°75 (Edition Faton), Paris, 2020 : pp. 4-61.
- Jules Janick, "Is Jean Bourdichon the Designer of the Hunt of the Unicorn Tapestries?", *Chronica Horticulturae*, cluj- napoca, Volume 54 Number 3, 2014, pp. 26-33.
- , "Plant Iconography and Art: Source of Information on Horticultural Technology", *Bulletin UASVM Horticulture*, 67 (1), cluj- napoca, 2010, pp. 93-104.

- Leslie Webber Jones and C.R. Morey, *The miniatures of the manuscripts of Terence prior to the thirteenth century*, V.1-2, Princeton, Princeton University Press, 1931.
- Thomas Kren and Scot McKendrick, *Illumination in the Renaissance: the triumph of Flemish manuscript painting in Europe*, Los Angeles, J. Paul Getty Museum, 2003.
- Thomas Da Costa Kaufmann, *The mastery of nature: aspects of art, science, and humanism in the Renaissance*, Princeton, Princeton University Press, 1993. [邦訳『綺想の帝国—ルドルフ二世をめぐる美術と科学』齊藤栄一訳、工作舎、1995年]
- Jean A. Givens, Karen and M. Reeds ed., Alain Touwaide, *Visualizing Medieval Medicine and Natural History, 1200–1550*, London, Routledge, 2016.
- Emile Mâle, "Jean Bourdichon et son atelier", *Gazette des Beaux-Arts*, 1904, t. 2, pp. 441-457.
- Mónica Miró ed., *Great hours of Anne of Brittany* [commentary volume], Barcelona, M. Moleiro Editor, S.A., 2012.
- Myra D. Orth, *Renaissance manuscripts: the sixteenth century*, v. 1-2, London, Harvey Miller, 2015.
- Otto Pächt, *Book illumination in the Middle Ages: An Introduction*, London, Oxford University Press, 1986.
- Erwin Panofsky, *Early Netherlandish painting: its origins and character*, Cambridge, Mass, Harvard University Press, 1956, pp. 377-378.
- John Plummer, *The Last Flowering: French Painting in Manuscripts 1420-1530*, London, Oxford University Press for the Pierpont Morgan Library, 1982.
- Françoise Robin, *La cour d'Anjou-Provence, La vie artistique sous le règne de René*, Paris, Picard, 1985.
- Kathleen L. Scott, *LATER GOTHIC MANUSCRIPTS 1390-1490*, London, Harvey Miller, 1969.
- Maurits Smeyers and Jan Van der Stock ed., *Flemish illuminated manuscripts, 1475-1550*, London, Press distributed by Harry N. Abrams, 1996.
- Tamara Voronova, Alexander Sterligov, *Western European illuminated manuscripts of the 8th to the 16th centuries*, London, Sirrocco, 2003.
- Martha Wolff (general editor), *Kings, queens, and courtiers: Art in early Renaissance France*, Art Institute of Chicago, Distributed by Yale University Press, 2011.
- ・研究書・論文（邦文献）
- ウィルフリッド・ブランド『植物図譜の歴史』森村謙一訳、八坂書房、2014年
- 大槻真一郎『西洋本草書の世界 デイオスコリデスからルネサンスへ』互澤元（編）、八坂書房、2021年
- ・展覧会カタログ及び事典
- Tours 1500 / capitale des arts. exposition, Tours, Musée des beaux-arts, Paris, Somogy, 2012.
- Jacques Le Goff, Jean-Claude Schmitt, *Dictionnaire raisonné de l'Occident médiéval*, Paris, Fayard, 1999.

Editor in chief, Colum P. Hourihane, *The Grove encyclopedia of medieval art and architecture*, v. 1-6, New York, Oxford University Press, 2012.

Edited by Gordon Campbell, *The Grove encyclopedia of northern Renaissance art*, v. 1-3, Oxford, Oxford University Press, 2009.

